



NPO☆Kyoken通信

特定非営利活動法人教育研究所発行114号 平成26年3月25日発行

本部 〒233-0013 横浜市港南区丸山台2-26-20 宇奈月自立塾 〒938-0282 富山県黒部市宇奈月温泉5509-16
TEL:045-848-3761/FAX:045-848-3742 TEL:0765-62-9681/FAX:0765-62-1120
URL:<http://kyoken.org/> E-mail:contact@kyoken.org

にいかわサポートステーション 〒938-0037 富山県黒部市新牧野103 ファースビル3F
TEL:0765-57-2446/FAX:0765-57-2447
mail:info@niikawasaposute.org

卒業式がある、この時期、三寒四温と言う言葉をよく耳にする。文字どおり三日寒い日が続いたと思うと、四日温かい日が来る、季節の変わり目を端的に表す言葉だ！また、花暦は移ろいゆく、花々や花木も気温の上昇とともに次々に開花し咲いていく。

まだ、雪が残る宇奈月でも、春を告げる花々がようやく咲き始めている。さらに、春が進むと、山菜取りも楽しめるようになる。今年も、天候異変なのか、全国的に気温の変化の激しかった、冬から春であったが、自然の花木は少々不純な天候には驚かされずに、穏やかに、大らかに季節の移ろいを私達に告げている。やはり、日本の四季で喜びの季節は春である。時々、訪れるバンコクやバンクーバーでは四季を強く感じる事が難しい。この季節日本にいと、やはり、日本はいいなあと思う、特に、冬の間、雪で閉ざされた宇奈月にいと特にそう思う。

地域の活性化と若者の雇用を確保し、新たな産業や生き方の価値観まで変えようとするプロジェクト「ストリートギャラリー宇奈月」と地熱発電宇奈月のプログラムは徐々に進みだしている。また、生活保護者や生活困窮者自立支援事業は、27年度から始まる国の対策に先駆けてモデル事業を行っている。だんだん、その成果も出て来ている。さらには、厚労省が支援するKHJ本部によるひきこもりの「ピアサポート研修」や内閣府の「アウトリーチ研修」、文科省委託調査研究「いじめ防止の標準化研究」等を宇奈月自立塾で行っている。

来年度はさらに、キャリアカウンセラーのトップが集まる第14回UCCの大会、タイ政府元閣僚の視察等が予定されている。忙しさや活動は大きくこの10年間で広がって来たが、当研究所の財政は悪化が、さらに進み始めている。

万全な体制にして、次の世代にバトンタッチしたいが、組織に比べ、活動内容が極めて大きいので苦勞の多い毎日である。でも、希望を持って前に進みたい。それが、日本のため、若者の幸せのためであり、私を含め老人達の年金資金獲得の道でもある。もう一步の支援と指示を会員の皆さまにはお願いしたい。(ム)

大人達よ、子どもや若者のためにビジョンを持とう！

牟田 武生

世の中変わった

富山県黒部市宇奈月温泉に若者の自立支援施設を作ってから10年目の春を迎える。

世の中全体がデフレ・スパイラルという長期に及ぶ不景気の中、若者の雇用はこの十年間で極めて悪くなり、非正規社員やアルバイトが非常に多くなり、ワーキングプアーや新たな生活困窮者層をつくり出し、格差社会は急激に広がった感がある。

また、NEET（雇用もされず、教育も受けず、労働訓練も受けていない）若者の増加やひきこもり・無気力な若者、現代型うつ傾向の若者、ネット依存の若者らが急増している。

従来的一般社会の流れ6・3・3・4の学校教育から一括終身雇用の仕組みは、完全に崩壊し、学校や専門学校・労働訓練校等で学ばないなら働きなさいというあたり前の常識や価値観を若者に押し付けても通用しなくなり、従来価値観は完全に崩れはじめています。だが、多くの人は気づこうともしない。

成熟社会とは何だったのか

同級生の50%以上が4年生大学に行く時代、しかし、世の中、使える専門性を持ったホワイトカラーの仕事は15%程度しかない。

オフィスではホワイトカラーの仕事は別にすると、コンピューターが主役、脇役の人間は単純なデータの打ち込みやコンピューターの管理が主な仕事である。また、工場では製造ロボットが主役、脇役の人間はロボットでは無理な仕事をコンピューターの命令によってこなしている。

15%程度のホワイトカラーの指導者とコンピューターや製造ロボットが主役の時代、多くの若者が働く場がなくなった。「成熟社会」本来は豊かな時代をイメージしていた成熟社会はどこに消えたのだろうか？

ひきこもりからの二次症状

医療・福祉・介護など、対人関係の仕事があるが、丸暗記詰め込み教育で人間関係を学ばず、超核家族や地域のコミュニティの崩壊社会で育った若者は人間関係のスキルが育たず、人との関わりの仕事だと自信が持てず、引いてしまったり、すくんだり、不安や緊張感が強くなり身動き出来なくなりひきこもってしまう。その状態で長い時間過ごすとうつ、自律神経失調症、社交不安障害や軽うつ、神経症等の精神疾患的な症状が現れる。

施策の失敗

日本の年金制度は、現役世代が働いて年金生活者を支える欠陥制度である。過去には団塊世代が働き手で年金生活者を支えることは出来たが、今は、少ない若者が団塊世代以上の高齢者を支えなければならない。さらに、今後、少子高齢化が急速の進み、どうするのか、収支のバランスは完全に崩れて行くだろう。1970年時代にはそうなることがわかっていました。

同じように、高度経済成長を終え、ゆるやかな成長に移り、成熟社会に入ることは、どんな社会学者も予想していた。でも、なんの手も打つこともなく、45年が経過してしまった。

本当の被害者は…

不登校、ひきこもり、不就労の若者の問題、さらにはネット依存の社会問題も同じである。彼らを怠け者とするのは簡単であるが、その当事者に本当に罪があるのか、そうではない、彼らは、ビジョンを持たなかった大人達の被害者でもあったのではないだろうか。また、行政は、これらの問題を長年、社会問題とせず、放置し、重篤なひきこもりになった人やネット依存が起こった。そして、時間が経過した後、彼らを精神疾患とする国の動きや医療者も現れて来ている。

百歩譲り、たとえ、彼らを精神障害者にしても、医療の領域で本当に治すことができるのか？おそらく、出来ないであろう、効きもしない投薬を一生受け続け、生きた屍の生活を続けさせることになるだけである。

大人がやらなければならない仕事

ひきこもりやニート、不登校は本人の状態像を適切に把握し、方法論さえ、間違わなければ、必ず、学校や社会に復学や復帰できると、40余年この仕事をしてきた私は思う。

そして、「大人達よ！ビジョンを持とう！」人間が人間らしく誰でもが生き続ける未来を作るために、建設的に計画的にまず、共生・共働・環境保全・エコという新しい価値観による地域社会づくりから始めよう！そして、時代の価値観を超えた雇用の場を創出しよう。それが団塊世代以上の大人に残された最後の奉仕の仕事だ！

SNEP&マイルドヤンキーに見る現代論とサポステ

牟田 光生

「SNEP」や「マイルドヤンキー」と、いった言葉をごぞんじですか？SNEP「スネップ」は造語であり、Solitary Non-Employed Persons の略であり、「20歳～59歳の孤立無業者」を指す。「ニート」の言葉を作った東大教授玄田有史先生の造語でもある。（色々と玄田先生に対し批判や様々な意見があるが、それらを挙げてもしようがないので、今回は挙げない。）

統計上「SNEP」の中に「ニート」も含まれ、約162万人現在存在している。フリーターの総数とほぼ変わらない数「孤立無業者」が居る事になる。（*孤立とは社会参加していない事を指し、一人暮らし以外にも親と同居していても指される、既婚者は除かれている。機能的会話をお店等でするが両親以外にコミュニケーションが無い状態）

マイルドヤンキーと言う言葉をごぞんじでしょうか？

彼らの特徴としては、「給料が上がっても絶対地元を離れたくない」「家を建ててはじめて一人前」「スポーツカーより仲間と乗れるミニバンが最高」「地元仲間との絆や関係が何より大事」といった例があげられており、ファッションはヤンキーを志向しながら、保守的な生き方を選ぶ彼らを「マイルドヤンキー」と命名している。

マイルドヤンキーの彼らが重要視するのは仲間であり地域コミュニティである。

私の友人にもその気がある者が沢山あり、私は「横浜保守系」と15年以上前から言っていた。富山に来てから9年だが、富山の人達にもそういった昔ながらのヤンキー的ではないが、試行的に地元地域コミュニティを重んじている人が全体的に多い。

何が、言いたいのか？

本当はコミュニケーションがあり、自分の安心して居る場所が欲しいのが共通点だ。マイルドヤンキーはそれをうたって居るが、SNEPはそれを言いだせる相手すら居ないし、方法も分からない。玄田先生の調査データではSNEPが

ネットばかりやっていると見いだせず、むしろ社会の方が SNS 等やっている傾向がある。(当然だろう、友達が居なければ SNS やラインは出来ない)

17日(月)にサポステの全国会議があり、いくつかのサポステの集中訓練の実績を聞いた、正直途中で眠くなってしまって、隣のサポステの方に起こして貰った(-;-)

私を感じるに、国の合宿支援はこの9年で遅れてしまった…各サポステの合宿苦労話も必要なだろう、しかし、解決的な方法論や策・テーマと言ったものが全く見えない。(ちなみに我々も発表する側に手を挙げたが、撥ねられてしまった。旧自立塾の所は全部弾かれていた…)

このニート?若年無業者?SNEP?根本は彼等が安心して地が出せるコミュニティを作り、安心相談出来る環境を整え、その中で切磋琢磨しながら、社会参加(就職等)していく。それらが必要なのではないか?

相談は適時随所に行い、毎回では無く、コミュニティやプログラムの中で本質を見抜く事が必要ではないだろうか?

マイルドヤンキーにせよ、SNEPにせよ、コミュニティやコミュニケーションを必要としている時代になってきている。

それら暖かくも多少の厳しさもあり、本人達の居場所になるような施設が必要ではなからうか?

求められている所は沢山あるが、にいかわサポステ・宇奈月自立塾はそういった施設になるよう精一杯頑張っていきます。

注1:孤立とは社会参加していない事を指し、一人暮らし以外にも親と同居していても指される、既婚者は除かれている。機能的会話をお店等ですが両親以外にコミュニケーションが無い状態。

30年前の教育研究所 (1980年代からの不登校と関わって その3)

～昭和型不登校から平成型不登校～

久玉 和昭

平成になってから、不登校児童生徒をとりまく教育環境がどんどん変化してきた。平成4年(1992年)に文部科学省が不登校は特定の子どものみに特有の問題があることによって起こることではなく「誰にでもおこりうる」「登校への促しは状況を悪化させてしまう場合もある」という見解を示した。学校現場では登校刺激をしないで様子を見ましようという指導により、必要な関わりを持つことまでも控えてしまう場合も多くみられた。本来学校という場は、ストレスがあっても当たり前な社会であり、子どもたちはその環境のなかで社会に対する耐性を作り、成長していく場であったはずである。しかし、不登校の子どもたちへの対応は、ストレス負荷を与えず、さまざまな障害を前もって取り除き、動きやすい環境を作っていくだけだったように思える。この指導方法については、平成15年(2003年)の文科省の報告で指摘され、是正された。一方、出席、進学などについては、高校進学、大学進学がそれほど困難な状況ではなくなってきた。大半の不登校の子どもたちは、高校、大学に進学していった。

このような教育環境のなかで、教育研究所は、平成12年(2000年)になってから、教室を磯子区洋光台という場所から、港南区丸山台という地区に移した。洋光台では教室のスペースもわりとゆったりとってあり、庭では軽い運動もでき、子どもたちはいろいろな居場所をつくることができたが、丸山台はもともと事務所として使用していた場所であり、空間的には狭い感覚が強かった。しかし通ってくる子どもたちは、狭い空間でのストレスを強く感じ散る様子でもなく、普通に過ごしていた。また「学校にいかない」ということに強い「葛藤」を感じていないようであった。教育研究所が

洋光台にあったとき通ってきた子どもたちが、「昭和型不登校」とすれば丸山台に通ってきた子どもたちは「平成型不登校」といえるであろう。

教育研究所は平成19年（2007年）前後から支援の場を、富山県宇奈月温泉に移し、ニートなどの若者の自立支援への活動が中心になり、横浜における、不登校のフリースペースの場としての役割は終えた。

教育研究所洋光台教室に通ってきた子どもたちは今35歳から45歳であり、丸山台教室に通ってきた子どもたちは、25歳から35歳になる。それぞれ異なった社会環境、教育環境の中で、学校教育を受け、学校から離れ社会に出ていった。彼らは今、ストレス社会の中で一生懸命働き、悩み、生活している。結婚した子どもも多数いる。会社で頑張っている子どももいる。思いがけないことで、会社を辞め相談にくる子どももいる。まだ社会に出ていけない子どももいるだろう。異なる教育政策のなかで、学校教育を受けた二つの世代の子どもたちが、これからどのような人生をいきていくのかは分からない。しかし、まだ人生は長い。自分の足で大地を踏みしめ自信を持って生きていってもらいたい。

ひきこもりとニートの心性は違うのか（前）

～ひきこもりは実はスペクトラム～

牟田 武生

ひきこもりとニートは違うのか？

一部の専門家や支援団体の人は、ひきこもりとニートは違うという。どこが違うのか、また、ひきこもりとニートでは、親の対応の仕方も違うのか考察してみる。

厚労省のひきこもりの定義によれば、「仕事や学校に行かず、かつ家族以外の人との交流をほとんどせず、6か月以上続けて自宅にひきこもっている状態」をさし、補足として、単一の疾患や障害の概念ではなく、様々な要因が背景になって生じるとしている。（注1）また、買物などの外出は対象にならないとする。

一方、ニートは（英Not in Education, Employment or Training, **NEET**）から、頭文字のNEETを取ってできた造語であり、教育も、雇用も、労働訓練もしていない15歳以上34歳までの若者と厚労省は定義した。

NEETの言葉の発祥の地はイギリスであり、1999年、工業化社会からIT、金融ビジネス、グローバル化等への大きな産業構造の変化が起こった。従来の学校教育だけでは、社会が求める労働構造の変化についていけなくなり、就労の機会を失った義務教育終了の15歳からおおむね18歳の若者で教育・就労・労働訓練を受けてない者を新しい産業の担い手になれるように、教育・労働訓練を行うことを目的にした。新たな若者向けの教育、労働サービスが行政から提供されることになった。

同じように、日本でもバブル経済崩壊後、コストダウンというグローバル化に対応するために、製造業は人件費の安価な中国や東南アジアに工場を移し、経費削減を余儀なくされた。その結果、物作りを中心に産業の空洞化が起こり、さらに国内の労働者は正規社員から非正規社員や派遣社員へ移行がなされていった。

技術がない若者達は即戦力にならないとされ、就職困難に陥っていった。国はその対策として、イギリスの取組コネクションを真似し、ニート対策を打ち出した。しかし、日本では15歳から18歳の年齢は高校生であり、高校生の就学率は97.5%（注2）になっている。その概念に適合する者が少なく、むしろ、義務教育過程での不登校状態の継続者、高校中退者、中卒未就職者、大学中途退学者を含めた不就労不就学者としてのひきこもりがその大半であった。結果的には、日本では、ニートは単なる若年失業者ではなかった。

一方、ニートの定義は「教育も、雇用も、労働訓練もしていない」若者であり、イギリス流に15歳～18歳ではなく、

日本的にアレンジして15歳から34歳（現在は39歳）までとした。この2つの条件の中には、ひきこもりも当然入ってくる。

ひきこもりは実像・ニートは虚像

ひきこもりの概念の中にニートが入るのか、ニートの中にひきこもりの概念が入るのかが難しい論議が必要であるが、ひきこもりは状態像であり、実像であるが、ニートは労働政策論の中で作られた、虚像の概念であったかもしれない。その不明確さが、その後、様々な支援混乱を生んだ。

ひきこもりを中心に支援する親の団体では、ひきこもりの人は、不安や混乱、情緒の不安定さからくる様々な症状や行動に対応し、その対応に追われる大変さが分かっているゆえ、自立や働くなんてレベルではない、それ以前の支援が必要だと考える。しかし、日本では子どもは親が育てるもの、育てあげ社会に出るのが家庭の役割とする考え方が強くなった。

若者は欧米では社会が、日本では家庭が育てる

欧米諸国は、子どもや若者は親と社会が育てるものという概念が存在する。しかし、日本では江戸時代から大家族制度の家父長制が続いた戦前までは残っていたが、戦後になり、個人原理に基づく核家族の中では消えてしまい、子どもや若者は社会全体で育てるという考え方はなくなった。

さらにバブル時代以前は、学校卒業後は会社が一括雇用し、社会人として働けるよう育成していくシステムが企業内に存在し、会社で終身雇用する仕組みがあった。だから親達は大学を卒業させれば良いという学歴信仰の風潮が強くなった。だが、グローバル化の波にのりこまれ、社会が崩壊した現在でも、多くの親たちは亡霊のようにそれを信じている。だから、若者を育てる社会コストを国は時代の価値観から遠く離れた学校教育だけにゆだね、負担しようとはしない。

しかし、国税+労働保険料を使う労働訓練費なら予算を組めるのである。ひきこもり支援団体と称する組織も予算をもらえるなら相談業務と労働訓練を行い始めた。一方、親が中心になった支援団体では、自立し、働くことなど、今の状態からみてとても無理であると思う。就労が目的だからひきこもり対策にはならないとした。

ニートはこころの症状が軽く就労体験も可能であるが、ひきこもりは症状が重くそんなことはできない。ニートとひきこもりは違う。だが、軽い症状のニートには、予算が出て、重いものにはでないのはおかしいと抗議する。ニートは就労支援（源泉は国税+労働保険）一方、ひきこもりは福祉支援（障害者支援）なのだが、ひきこもりは障害者としての診断や認定を受けてないので支援方法がない。その違いが理解できていない。

しかし、実際に支援を行ってみると、純粋のニートは少ない。（注3）参加者は、不登校、ひきこもりと発達障害気味の若者たち、医療でうつや統合失調症、神経症等であるが、医療行為が上手くいかなかった若者の群れだった。

ひきこもりは実はスペクトラム

ひきこもりが最も大きな外枠の集合体とすると、ひきこもりはスペクトラム（変化する集団）と考えると理解し易い。最も重篤な者は、精神疾患を持っているか居ないのか診断し難いひきこもりであり、最も軽いのは、こころの問題を抱えず、就職機会や就労訓練が十分でない者と考えてよい。重篤の者は医療機関とも連携は必要であり、必要に応じ、心理カウンセリング、労働観の熟成、生活指導、人間関係のスキルの向上、家族関係の調整、基礎学力の養成、労

働訓練、就労体験、免許・資格の習得、就職活動支援等がある。

だから、医療ケアを終えても、生活リズムの改善、生活訓練、人間関係のスキルの向上、生活指導等をおこなってからでない労働訓練には移れない。いずれにせよ、最終目的はその人なりの自立である。 (続)

注1：厚労省 三宅由子地域疫学調査 H16

注2：平成24年文部科学省調査

注3：ニートの意識構造と就労 2012年NPO 法人教育研究所研究調査

サポステ一周年と今後について

牟田 光生

昨年25年度に地域若者サポートステーションを厚生労働省から認定を受け、「こいかわ若者サポートステーション」として、1年間運営をしてきた。初年度なので、戸惑う所もあれば自立塾でのノウハウキャリアを活かし、上手く行ったケースもあった。

年間利用者数約200名、進路決定約100名、利用者のべ数約3200名。

おそらく全160個所のサポステで一番人口の少ないエリアだと思われる我々が、実績としてこれだけの数値が残せた。スタッフの皆が頑張った成果でもあるし、自立塾含めた地域に支えられた形だ。

26年度、サポステの認定は受ける事が出来たが、予算は半分である。すぐに消費増税も迫っている。しかし、日本の未来の為にはなんとか気持ちは頑張っていきたい。生活保護者の支援事業も宇奈月に入所した人の就労率は100%を保っている、生活困窮者の支援事業も我々には積み重ねた実績があり、おこなっていきたい！

1年後には北陸新幹線も開通し、宇奈月温泉地熱プロジェクトも少しずつ動き始めている。

今富山県を大きく動かし、日本の今後を大きく動かす転換期が来ていると肌身で感じている。

苦しい現状は続いていくが、皆で力を合わせ頑張っていきたいと思います。

今年度を振り返って

ペンネーム 才蔵

早いもので、宇奈月自立塾で生活し始めて丁度1年になります。色々ありすぎて、気がついたらもう一年経っていた感じです。入所したと同時に若者サポートステーションが立ち上がり、突貫でホームページの作成と旧寮の引き渡しによる後片付けも重なり最初の1ヶ月で5キロ痩せました。その後凄腕の調理人の方が来られてから、ご飯がうますぎてすぐに戻りましたが(駄目じゃん)、兎に角最初からハードでした。

今年5月の教研通信で率先して行動し寮生の手本となるように行動したいと書き、実践できるか自分に甘くなってしまふのでは無いかと不安にもなりましたがなんとか有言実行できました。作業をやっていると率先して手伝ってくれる子もいて嬉しくなる半面、伝わらない子もいました。黙って背中で語るには限界があることは分かっていたので注意したり諭したり、時には厳しく叱ったりしましたが実にこれが難しいのです。相性や私の未熟さに問題があるのだろうし育ってきた家庭環境、社会要因もあるので一筋縄ではいきません。意のままに塾生を動かそうと、思った事はありませんが、やれない理由を一生懸命考えて作業をしない子、実際はどこも問題がないのに精神的な病を理由に困難から逃れ

る子、病気ではないのに病気のフリをする子、常識の範囲外の行動をとる子もいて後手に回ることもありました。経験不足や失敗も多く自分としては合格点を取れた気がしません。そういう子達にいかにかやる気を出させて行動させるかが今の私の課題です。万人に受け入れられるように努力はしないとイケませんが、万人に受け入れられる程人間が出来ていませんのでどうしても相性の悪い子もいますし、嫌われてしまうこともあります。そんな時は他のスタッフに助けていただき。感謝の念が絶えない1年でした。

自立塾に来る子は基本的にコミュニケーション能力が低い子、適度な他人との距離感が育っていない子が多いです。信じられない程些細なことでトラブルになったりするのを見ると、自分のメンタルは子どもだと思って生きてきましたが、大人になったというか歳をとったなあ〜と自覚というか錯覚します。それは、子ども達にアドバイスしたり、褒めたり、相談に乗ったり、時には説教するうちに私が大人へ引き上げられているのかもしれないです。それに、感謝されることもありまして、嬉しくなりました。今でも、人に偉そうに説教をするのは嫌いですし、まさか人の相談に乗ってアドバイスするなんて想像もしていませんでしたが、この仕事に必要なスキルですから逃げる訳にもいかず否が応にも人間の幅が広がりました。ブログにも書きましたが、立場は人を変えるのもしれません。

それと、時代なのでしょうか？自立塾に入寮する子の中には基本的な事を出来ない子、しない子が多いのには驚かされます。トイレ掃除をしたことがない。風呂で掛け湯をしない、湯船で体を洗う。公共の場所を汚してもそのままにするなど、呆れてしまう場面が多々ありました。子どもがかわいいのは分かりますが社会常識やマナーを教えていくのは親の責務だと思います。就労支援ではなく育て直しを強いられる場合があり教育ってなんだろうと考えさせられました。学問ができて生活する上での当たり前前の部分が未成熟だから自立できない一面もあると思います。このような状況を鑑みると、教育と勉強とは何のためにあるのかを今一度考えて仕組みを変えて行かなければならないのではないのでしょうか。勉強とは何も学問をすることだけでは無いのです。もっと言えば学歴をつけるためにするものではありません。学歴で飯が食べられる時代は終焉を迎えつつあります。

しかし、子どもだけでありません。社会的居場所づくり事業においては大人であっても依存状態であるのにもかわらずそれを認めようとせず依存状態を維持しようとする人がいて対応には苦慮することもありました。

予想以上に様々な困難に直面して、普通に生活していたら経験できないことをして充実した一年となりました。若くは無いいし疲れも抜けませんがまだまだ道半ばで修行中です。

今年度を振り返って

長崎 悦子

平成25年8月に精神障害者枠で入社しました。

前職で、働ける喜び。仕事の楽しさを知りました。1人でも多くの人に同じ感動を味わって欲しいと意気込んで(?)この職場で働き始めました。

しかし、自分の至らなから『体育会系』のこの職場にドン引きし、いろんな不満を持ってしまい、辞めたい。。そんな毎日を過ごし、ついには『失踪』しました…。(1日だけ)それをきっかけに、私がこの職場に入ってきた理由を思い出させてくれた人がいました。

それからは、いじめアンケートの仕事を通して、また仕事の楽しさを味わっている毎日です。サポステの利用者さんや塾生も事務員の私に少しずつ話しかけてくれるようになりました。どんどん皆が成長していく姿を見ていて、嬉しくなり、そして励まされました。私も、成長してしっかりしないと。そんな気持ちになりました。

利用者さん、塾生を通して、自分の心と向き合う機会が増え、いろんな人からいろんな事を学べた半年でした。今では、お医者さんから「うつ状態は脱しましたね。」と言われるようになりました。

『仕事は楽しい♪』1人でも多くの人にそんな想いをしてもらいたい。『サポステの事務』と『経理』の仕事を兼用しながら、私に出来る事を考えてみました。『クレペリン検査』『YG検査』『職業適性検査』の判定を勉強して、少しでも多くの人に、その人の適性に合った方向を見つけられるお手伝いをします。そして、『引きこもりの人専用の職業適性検査』の開発に向けて進めていきます。

人に助けられた半年。ちょっとでも、私がもらった人の温かさを伝えていけるように。

来年度は、それを目標に働いていきます。よろしくお願いいたします。

宇奈月自立塾 寮費消費増税分のお知らせ

拝啓

三寒四温の日々が続いており、少しずつ春の息吹を感じて参りました。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。

さて、平成26年4月より、消費税が5%から8%に上がるのは御承知だと思います。

我々NPOも免税団体ではなく、課税対象団体になり、非常に苦慮しております。

近年の灯油代金含め燃料費の高騰、(塾を始めた当初は灯油1ℓ60円台だったが、今年は100円前後)や3月に入ってから宇奈月は雪が積もる日もありまして、3月に入っても灯油使用を抑える事が難しくなった次第であります。

それらを踏まえまして、4月より寮費の消費増税分の値上げを苦渋の決断ながら行う事になりました。

何卒、趣旨ご理解いただきますようお願い申し上げます。

敬具

今後の予定

実施日・行事	内容	場所
4月12日(土) ----- 牟田武生 blog の会	「仮想社会より現実社会の方が楽しいよ」をテーマに牟田武生 blog の読者、教研 OB の方を交えた飲み会を開催します。 参加希望者は下記メールまでご連絡ください。 muta@kyoken.org	新橋 午後5時半～
4月24日(木) ----- ソフトボール大会(ニート甲子園)	親交のある支援団体とプライドをかけたイベントです。応援も大歓迎です。	黒部市中ノ口緑地公園
5月3日(土)～5月5日(月) ----- 第1回 親勉強会・合宿	ひきこもり、ニートの親御さんを対象に下記の内容をテーマに開催します。 ① 講義と具体的な対応方法 ② 就労体験先の見学と説明会	宇奈月自立塾
5月中旬 ----- ストリートギャラリー宇奈月	町興しと若手芸術家の育成と支援を兼ねた「ストリートギャラリー宇奈月」を開催します。その作品発表の場を広く、若き芸術家の卵に提供します。現在作品提出者を、公募しています。	宇奈月温泉
5月19日(月)～5月30日(金) ----- 第1回 背中後押しプラン	入塾や留学等を考えている方のウォーミングアッププランです。このプランから他のコースに移行し、自立支援の方は公共職業訓練に向かいます。	宇奈月自立塾
6月1日(日)～8月31日(日) ----- (予定) 厚生労働省認定 集中訓練プログラム	集中訓練プログラムとは、基本的には共同生活をしながら、生活リズムを整え、人間関係のスキルを磨きながら、社会に出るために、最低限必要なビジネスマナーの修得をしながら、自分にあった仕事を、様々な労働体験を6ヵ月通して学んでいくプログラムです。	宇奈月自立塾
8月23日(土)～8月25日(月) ----- 第2回 親勉強会・合宿	ひきこもり、ニートの親御さんを対象に下記の内容をテーマに開催します。 ① 講義と具体的な対応方法 ② 就労体験先の見学と説明会	宇奈月自立塾
8月23日(土)～8月31日(日) ----- 第2回 背中後押しプラン	入塾や留学等を考えている方のウォーミングアッププランです。このプランから他のコースに移行し、自立支援の方は公共職業訓練に向かいます。	宇奈月自立塾
10月6日(月)～10月10日(金) ----- 内閣府アウトリーチ研修	ニート、ひきこもり等の子ども・若者の支援を目的とした子ども・若者育成支援推進法(平成21年法律第71号)に基づき、現場の支援員を対象として、実地研修を伴う「アウトリーチ(訪問支援)研修」を実施します。	宇奈月自立塾

※ 入塾は随時受け付けております

※ 詳細につきましては表紙の連絡先までお問い合わせください

※ にかわサポステの詳しいスケジュールはサポステ通信をご欄下さい

牟田武生自身ための広告 横浜カウンセリング・その他のお知らせ

カウンセリング

横浜では土、日を中心に行っております。予約はお電話ください。

1時間 15000円（会員10000円）1時間半 18000円（会員13000円）

富山では月1回、宇奈月温泉で行っております。料金は横浜と同じです。

また、全国各地では講演や研修の際に不定期に行っております。

メールでのカウンセリングは会員のみ、原則無料ですが、こころある方はご寄付をお願いします。

詳しくはお尋ねください。

講演

教育委員会・児童民生委員・親の会・私立学校連合会・PTA・福祉関係等様々なところで研修・講演も行っております。

また、マスコミ関係の研修・番組企画・企画相談等もやっております。研修会の企画立案、コーディネートもご相談ください。（有料）

ブログの会（OB及び元保護者・ブログの愛読者の飲み会）

年2回 春は東京新橋周辺・秋は宇奈月温泉で行います。今回は4月12日（土）午後5時半～新橋で

ネット依存親の会勉強会

毎月第4日曜日午後1時～3時、横浜事務所で費用1回2000円

①ネット依存とは②ネット依存から抜け出るには③親としてすべきこと

不登校・ひきこもり親の勉強会

毎月第4日曜日午後3時半～5時半、横浜事務所で費用1回2000円

①ひきこもりのタイプ②親はどう理解し支援するか③学校復帰・社会的自立をするためには

留学&海外遊学・就労の会 価値観を変える海外旅行の会（自分探しの旅）

毎月第4日曜日午前10時～12時、横浜事務所で費用1回2000円

①異文化交流は価値観を変えるか②具体的に留学や遊学とは③海外で自立して働くには

※全て、要予約です。予約は電話で045-848-3761 NPO 法人教育研究所横浜事務所

※勉強会は講義・情報交流会・どう対応したら良いかの構成で行います。

牟田武生 宇奈月温泉で…

カウンセリングやアウトリーチの他に…

親の勉強会（二泊三日）は講義と具体的な対応方法、就労体験先の見学と説明会、当事者若者短期合宿を行います。

詳しくは宇奈月自立塾にお尋ねください。076-562-9681（宇奈月自立塾）

ゲストルーム等あり宿泊も可能です。（会員割引あり）

編集後記

若者自立塾、にいかわサポートステーションなど運営し、10年目を迎えている。富山言葉で、他の県からやってきた人のことを「旅の人」と言う。まだ、当分、旅の人扱いが続くが、地元の経営者の皆さん、地域医療関係者、様々な行政担当の人に支えられ、10年間運営できた。大変感謝している。

今後は旅の人から地の人になれるように、あと、10年は地域に根が張るように頑張っていきたいと思っている。

ようやく、横浜でも春一番が昨年に比し、17日遅れて吹いた。春の訪れである。不登校やひきこもりの人で勉強しなくても、4年生大学に合格するようになった。それこそ、20年前は本格的に勉強しなければ、どんな大学でも難しかった。苦しい思いをして大学に入った人はやめなかった。でも、今は簡単に大学で不登校になり、辞める。例え、他の大学や専門学校に入ってもやめる人が多い。大学や専門学校に入りさえすれば、どうにかなると親も本人も考えているが、どうも、本質的な問題はそうではないということを早く気付いて欲しいと願っている。

寄付をお願いします

昨年4月から厚生労働省の委託事業である「若者サポートステーション」事業を黒部市新川地区で「にいかわサポートステ」として開所、運営しています。

しかし、中央官庁の予算執行が概ね半年分遅れています。その額は2000万円を超えています。半年分の経費の立替資金、その中には、税金や年金等、公的支払いも含まれるが猶予はありません。支払いが遅れれば14%強のサラ金よりも高額な延滞金が付きます。

だが、非営利団体は利益追及を目的にしていませんから余剰金はありません。理事長の給与はないのは当然ですが、正規職員の一部は給与の支払いを遅らせても、その職員の公的支払いや運営費に充てなければなりません。

やせ細る年度末です。NPO法人教育研究所の運営はまだまだ安定した状況だとは言えません。研究投資、人材投資等にも相当の予算が必要になってきます。

会員の皆様含め多くの方々から温かい寄付をお願いしています。認定NPOになるためにも、まだ、まだ、足りません！寄付は次の銀行、郵便局からお願いします。

横浜銀行 上永谷支店 (323) 普通 1442822 名義 特定非営利活動法人教育研究所 理事長 牟田武生
郵便振替 00230-9-112182 特定非営利活動法人 教育研究所